

来日岳の蝶類

木下 賢司

I はじめに

来日岳の蝶は、既に「豊岡市周辺の蝶」(遠藤知二・谷角葉彦・中野真, 1975, 自然保護協会但馬支部研究紀要, vol.1 (1)) に34種が報告されているが、新たに来日岳で記録した25種を加え、改めて来日岳の蝶類としてここに報告する。もとより、この報告もその調査期間が短かい上に、調査の季節、範囲(コース)ともに偏り、とても十分なものとはいえないが、一応の中間報告とし、今後も調査を続け補う、ていきたいと思う。

但馬の地区にもいよいよ虫の会が誕生しようとしている。全国各地の虫の会の活発な活動を風の便りに聞くと、どんなにか羨ましく思い、また但馬に長く住んでいながら、調査や報告を都会の人達のみにも頼らなければならぬもどかしさを何時も味わってきた私には、その待ちに待った但馬の人達の虫の会の胎動が次第に高まりつつある現在、その嬉しさはとうてい言葉などでいいあらわせるものではない。

しかし、正直に言えば、私達の活動はまだほんの出発点に立ったところで、いわば小さな点にすぎない。その意味からすると、この目録もその未熟さ不完全さからいって、まさに点にすぎないと思う。今後はいかにこのような点を増し、それを線とし、面としていくか、高い換ればいかにその輪を広げて、研究の立ち後れた但馬の地の蝶相を把握していくかにあると思う。自然破壊の急激な進行がこの但馬でも例外ではない現象を考えると、もはやそれは急務でさえあると思う。そして、その資料が自然破壊への歯止めに少しでも手掛かりとなることを信じてがんばりたい。

尚、この目録に資料を提供して下さい。豊岡高校生物

部の皆さん、植物のことで御指導下さった庵中政和先生、早川貞夫さん、また印刷に関して大変御世話になった渡藤知二さん、谷岡繁彦さん、その他の方々には深く感謝いたします。

II 地形、気候 および 植生の概要

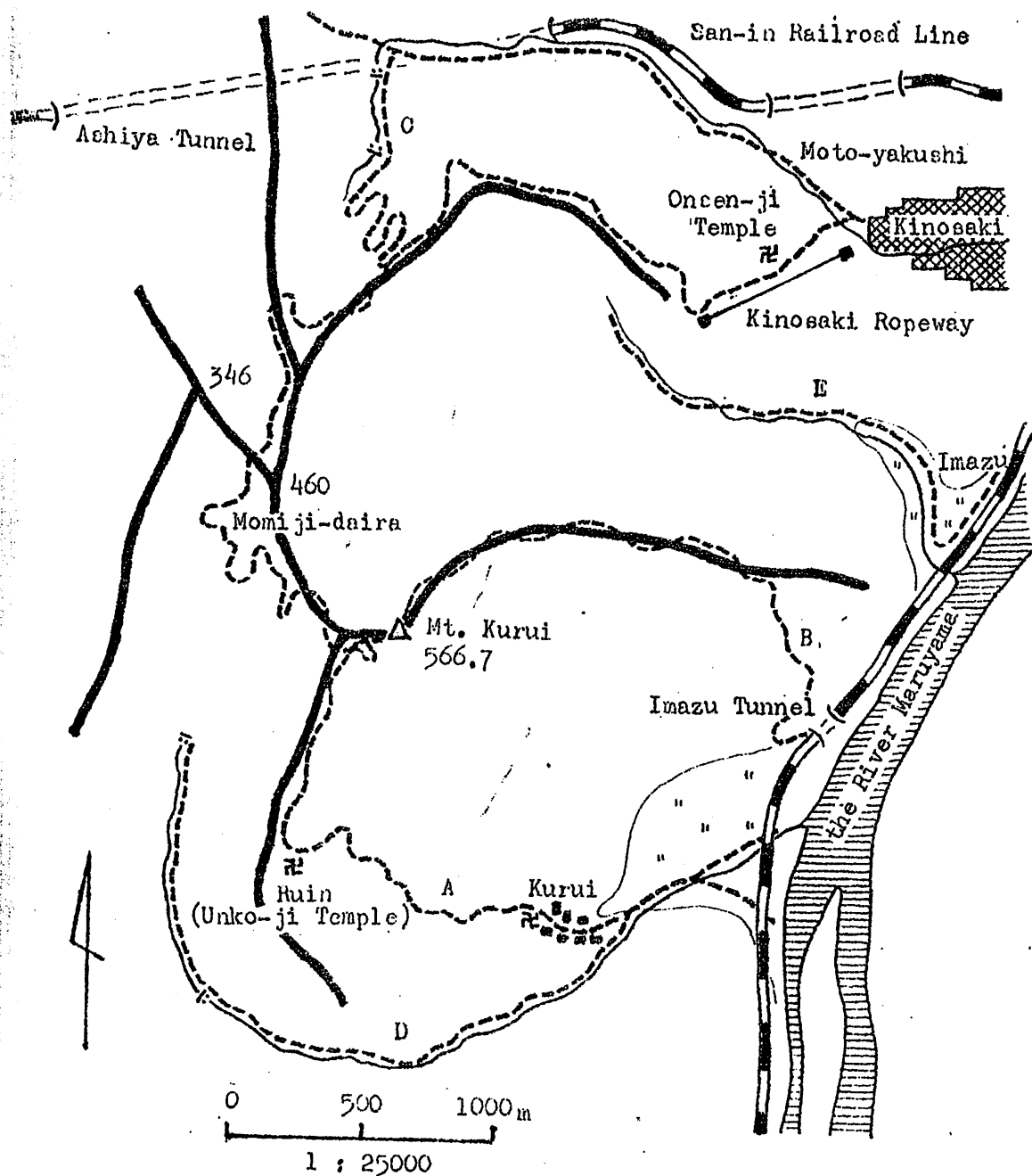
采日岳(566.7メートル)は、兵庫県北部のほぼ北端近くに位置し、東西を円山川と竹野川にはさまれて、山頂より北僅か5km足らずに日本海の荒波が打ち寄せている。

気候は、その位置から典型的な寒日本型の気候で、ともに季節風を受ける冬には山頂付近では2メートルにも及ぶ積雪がある。年間雨量はふもとの城崎町でも2600ミリを越えて、実に神戸あたりの2倍に達するという。

地質はその寒層を北但層群に被われていて、山容が急峻な割には地形は単純で、頂上よりほぼ南北にのびる尾根と東に急激に円山川まで落ち込む尾根からなり、谷は深く、采日部落奥の谷と城崎より山陰線沿いにのびた谷が目立つ程度である。

その植生は、中腹までスギ、ヒノキの植林が達し、草原らしきものはほとんど見られない。僅かに谷すじ、休耕田、伐採跡および中腹の寺跡付近のクリ林上部にススキ等の草原らしきものが見られるにすぎない。その他、中腹までは植林に混じって、僅かにコナラ、クリ、ホウノキ、エノキ等の混じった小さな林が見られる。また、中腹以上では、また植林の進んでいない場所がほとんどであるが、二次林的なクリ、クヌギ、コナラ等が多く、それにアカマツが加わり、シイ、シラカシは僅かに残されている程度である。山頂付近は、ほとんど人の手の入っていないところが多く、クマノミズキ、ミズナラ、ヤマボウシを主に、僅かにブナも見られる。

また、城崎町の温泉寺周辺は、かつての原植生がそのまま残されていて、シイの古木を中心にクス、サカキ、モチ、タブ、ツバキ、ユズリハ等が繁茂して、城崎の四所神社や豊岡市気比の絹巻神社付近と共に、日本海側としては非常に珍しいヒメハルゼミの棲息地であることがうなずける。



THE MAP OF STUDY AREA

Ⅲ 採集調査地域および調査回数

採集、調査は主として次の5つの地域(コース)によ、て行
な、た、

A: 来日より中腰寺跡を経て山頂に至るコース
5月(3回)、6月(2回)、7月(1回)、8月(2回)

B: 今津トンネルより山頂および山すそ付近
5月(1回)、6月(1回)

C: 城崎よりマイクロウェーブ道を経て山頂および温泉寺付近
4月(1回)、5月(3回)、6月(1回)、8月(1回)

D: 采日部落より谷の奥へ至るコース
5月(1回)、6月(1回)、7月(1回)、8月(1回)

E: 今津から谷の奥へのコース
7月(2回)

IV 目録

上記5つのコースにより、現在までに採集し確認した種のみを掲げた。採集場所についてはなるべく詳しく書いたが、過去の記録のため確認できないものについては采日岳のみとした。

I HESPERIIDAE セセリチョウ科

1. *Erynnis montanus* BREMER ミヤマセセリ

1975-V-12 山頂付近 (Kenji KINOSHITA)

全山を通じ、個体数は多く、山頂付近では5月末までみられる。

2. *Daimio tethys* MÉNÉTRIÈS ダイミョウセセリ

1961-VI-6 采日岳 (K. K.)

1975-V-12 今津トンネルの上 (K. K.)

山すそから中腹にかけてみるが、少ない。

3. *Choaspes benjaminii* GUÉRIN-MÉNÉVILLE アオバセセリ

1975-V-12 采日 (K. K.)

山すそから中腹にかけて、春(5月)、夏(8月)ともみかけるが、数は少ない。

4. *Ochlodes ochracea* BREMER ヒメキマダラセセリ

1975-V-12 采日 (K. K.)

山すそから中腹までみられ、林縁の草地を活動に飛翔しているものをみかけるが、少ない。

5. *Thoressa varia* MURRAY コチャバネセセリ

1973-V-27 采日 (Tomoji ENDO)

1975-V-15 城崎、元薬師興 (K. K.)

山すそから中腹まで多く、特に夏道を上る水、獣糞などに集まっているのを多くみる。

6. *Pelopidas jansonis* BUTLER ミヤマチャバネセセリ

1975-V-15 城崎、元薬師興 (K. K.)

山すそ谷すみにみかけ、アザミの花茎に集まっているものをみかける。あまり数は多くない。

7. *Parnara guttata* BREMER et GREY イチモンジセセリ
1975-VI-10 中腹寺跡付近 (K. K.)

各地に普通にみかけるこの種をあまりみなかったのは、調査の時期が春から夏に集中していたせいかもしれない。

森林の周辺や雑林などに生活する種が多いのは、采日岳にはあまり草原らしいものが見られないせいだと思われるが、形も小型で飛翔も速い種が多く、見落としやすい可能性もあると思うので、今後の詳しい調査が必要だと思う。

II PAPILIONIDAE アゲハチョウ科

1. *Parnassius glauciolis* BUTLER ウスバシロチョウ

1973-V-27 采日 (T. ENDO)

1974-V-26 中腹寺跡付近 (Makoto NAKANO & Tatsuya TOMODA)

1975-VI-4 采日 (K. K.)

1976-V-28 采日 (K. K.)

1例を除いて、いずれの採集例も采日部跡の奥の谷すじにみられたものであるが、採集したものの他に二、三頭みられただけで、非常に数が少ない。

2. *Luehdorfia japonica* LEECH ギフチョウ

1968-IV-21 采日岳 (Norihiko YOSHIDA)

1976-IV-17 もみじ平 (K. K.)

4月の調査はただの1回だけで不完全ではあるが、数は少なくない。今後、采日側での調査もしたい。

3. *Graphium sarpedon* LINNAEUS アオスジアゲハ

1976-VIII-4 采日、谷の奥 (K. K.)

全山を通じて極めて多く、特に上記採集の折には区の上に二、三十頭の若蝶が吸水しているのを数ヶ所で観察した。

4. *Papilio machaon* LINNAEUS キアゲハ

1973-IX-15 采日岳 (M. NAKANO & Yukuo KUKUHARA)

1975-V-12 山頂 (K. K.)

全山を通じてあまり数は多くはないが、山頂には蛹室をつくっているものを多数みかける。

5. *Papilio xuthus* LINNAEUS アゲハ

1974-IX-29 采日岳 (M. NAKANO & Koji HATA)

1975-V-28 山頂 (K. K.)

前種に比べて旧地に多く、畑などの花に集まるものを多くみる。山頂にも蛹室をつくるものをみかける。

6. *Papilio helenus* LINNAEUS モンキアゲハ

1975-V-28 山頂 (K. K.)

1975-VIII-6 元薬師、谷の奥 (K. K.)

全山に少なくない。春はアサミ、夏にはクサギの花に集まるものや、吸水に集まるものを多くみかける。

7. *Papilio protenor* CRAMER クロアゲハ

1975-VI-4 采田 (K. K.)

1975-VIII-6 元薬師、谷の奥 (K. K.)

前種よりは少ないが、山すそ、中腹に普通にみかける。アサミの花等を訪れるもの、吸水しているものなどを見る。

8. *Papilio blenor* CRAMER カラスアゲハ

1975-V-12 今津トンネル上の尾根 (K. K.)

1975-VIII-6 元薬師、谷の奥 (K. K.)

山すそから中腹にかけて多く、春型はアサミ、ツツジの花、夏型はクサギの花に集まるものとみかける。

9. *Papilio maackii* MÉNÉTRIÈS ミヤマカラスアゲハ

1974-IX-29 采田岳 (M. NAKANO)

1975-V-12 山頂 (K. K.)

1976-VIII-20 もみじ平 (K. K.)

山すそから山頂まで普通にみられるが、山頂で蝶道を走っているものが特に多い。

上記の他に、*Papilio macilentus* JANSON オオカアゲハ (1975-V-12, 今津トンネル付近, 木下), (1975-V-27, 采田, 木下) の目撃記録があるので、この種も山すそを中心に少ないながら種奥するものと思われる。ウスバシロチョウの記録は全て采田側のものであるが、城崎側、竹野側等まだ発見の機会はあると思う。ギフチョウについては、城崎ロープウェイ上終点からもみじ平付近までやや多く見られるので、あたりの林の中にカンアオイ類の自生地があると思われる。

III PIERIDAE シロチョウ科

1. *Eurema hecabe* LINNAEUS キチョウ

1974-IX-29 采田岳 (M. NAKANO)

1975-V-12 今津トンネル上 (K. K.)

1975-VI-10 采田 (K. K.)

山すそ、中腹ともに最も普通にみられる。

2. *Gonepteryx aspasia* MÉNÉTRIÈS スジホソヤマキチョウ

1974-IX-29 采田岳 (M. NAKANO)

1975-VI-15 元薬師、谷の奥 (K. K.)

上記2例のみなので、少ないものと思われる。

3. *Colias erate* ESPER モンキチョウ

1975-V-14 中腹寺跡付近 (K. K.)

山すそを中心に中腹までみかけるが、数は少ない。

4. *Anthocharis scolymus* BUTLER ヲアキチヨウ
1975-V-12 采日 (K. K.)
山すその畑などに現われ、ダイコンの花等に集まっているのをみかける。数はあまり多くない。
5. *Pieris rapae* LINNAEUS モンシロチヨウ
1975-V-12 今津トンネル付近 (K. K.)
1976-VI-1 采日 (K. K.)
山すその畑周辺に普通に見られる。
6. *Pieris melete* MÉNÉTRIÈS スジグロシロチヨウ
1974-IX-29 采日岳 (M. NAKANO)
1975-V-12 中腰寺跡付近 (K. K.)
山すそから中腰にかけて普通にみかけるが、前種より山地性が強い。

今までこのところ、采日岳に限らず豊岡近辺では *Pieris napi* LINNAEUS エゾスジグロシロチヨウの報告はないが、可能性は十分にあるので、今後の課題としたい。

IV LYCAENIDAE シジミチヨウ科

1. *Artipoetes pryori* MURRAY ウラゴマダラシジミ
1961-VI-6 中腰寺跡付近 (K. K.)
その後の調査はないので、非常に少ないものと思われる。
2. *Favonius orientaris* MURRAY オオミドリシジミ
1974-V-26 采日岳 (M. NAKANO)
3. *Rapala arata* BREMER トラフシジミ
1975-V-12 山頂 (K. K.)
山すそより頂上までみられ、少なくない。
4. *Callophrys ferrea* BUTLER コツバメ
1970-IV-19 采日岳 (Motohiko TANIKADO)
1975-V-12 山頂付近 (K. K.)
全山に普通にみられ、山頂付近では5月下旬までみられる。
5. *Lycaena phlaeas* LINNAEUS ベニシジミ
1975-V-27 采日 (K. K.)
山すそを中心に普通。
6. *Taraka hamada* DRUCE コイシシジミ
1974-V-26 采日岳 (M. NAKANO)
1976-V-29 采日、谷の奥 (K. K.)
山すそを中心にみられるが、場所が限定され、その数も多くない。
7. *Lampides boeticus* LINNAEUS ウラナミシジミ
1974-X-10 采日岳 (T. TOKODA, S. YASAKI & Y. MUKOHARA)
1975-VIII-12 元榮師谷峠登り口 (K. K.)
本種の土着地域は、房総半島以西の暖のない温暖な地域とされ、発生を繰り返しながら次第に北上する本種の、豊岡付近での従来の最も早い採集例は、1963-

VIII-25 神武山(茂田 隆彦氏)であることや、翅がかなり石炭様になっていることから、VIII-12の個体は南から移動してきたこの地方人の第一種と思われる。本種は、山すそを中心に エンドウ、アズキ等の豆、クズ"など" マメ科植物の付近を飛び回るのを多くみかける。

8. *Pseudozizeeria maha* KOLLAR アマトシジミ

1975-VIII-12 采日 (K. K.)

山すそには普通。

9. *Celastrina argiolus* LINNAEUS ルリシジミ

1975-VI-10 采日 (K. K.)

1976-VI-1 今津トネル付近 (K. K.)

山すそから山頂付近まで"最も普通にみかける種で、一般に樹上と高く飛びかゝるが路上の湿地に寄るものも多々ある。

10. *Everes argiades* PALLAS ツバメシジミ

1975-V-27 采日 (K. K.)

山すそ"およい"中膳寺跡付近で"みかけるが、あまり多くはない。

平地性セフィルス類としては、ウラゴマダラシジミ、オオミドリシジミの記録しかない。後者の数は少なくともと思われるが、上記1例の記録しかないので、今後の調査が待たれる。他の、クヌギ、コナラ、ミズナラ等のブナ科植物を食樹とする平地性セフィルス類、とくに、*Japonica lutea* HEWITSON アカシジミ、*Japonica saepestriata* HEWITSON ウラナミアカシジミ、*Antigius attilia* BREMER ミズイロオナガシジミ等の当然発見されてもよい種の記録がない。また、食樹を同じくする、*Favonius jezoensis* MATSUMURA エゾミドリシジミ、*Favonius cognatus* STAUDINGER ジョウザンミドリシジミ、*Chrysozephyrus aurorinus* OBERTHÜR アイノミドリシジミの発見の可能性は、当然だと思ふ。アカガシ、ウラジロガシ等を食する *Narathura japonica* MURRAY ムラサキシジミの発見も当然だし、トネリコの木もあるので *Ussuriensis stygia* BUTLER ウラキンシジミや、城崎側にはトチもかなりあることから、*Celastrina sugitanii* MATSUMURA スギタニルリシジミ等の今後の発見が楽しみである。

V CURETIDAE ウラギンシジミ科

1. *Curetis acuta* MOORE ウラギンシジミ

1972-X-7 城崎ローアウェイ上終点付近 (K. K.)

1974-IX-29 采日 (T. TOMODA, S. YASAKI & Y. MUKOHARA)

1976-VIII-4 采日 (K. K.)

金山に普通、特に9月後半以降の秋型は数が多く、路上の湿地に集まるものも多々みかける。

VI DANAIDAE マダラチョウ科

1. *Parantica sita* KOLLAR アサギマダラ

1974-IX-29 采日岳 (T. TOMODA, S. YASAKI & Y. MUKOHARA)

確実な記録は上記の1例のみで、采日岳で発生したものかどうか分からない。平地では珍しいが、竹野海岸道終付近での目撃の報告が数件あることから、その方面から飛んできたものか、食草であるキジョランの采日岳での分布ともあわせて今後の課題としたい。

VII LIBYTHEIDAE テングチョウ科

1. *Libythea celtis* FUESSLY テングチョウ

1972-X-7 城崎ロープウェイ上終点付近 (K. K.)

1975-V-28 元藪師、谷の奥 (K. K.)

全山に普通にみかけ、6月中旬には新鮮な個体がみられる。

VIII NYMPHALIDAE タテハチョウ科

1. *Argyronome ruslana* MOTSCHULSKY オオウラギンシロウモン

1976-VIII-4 采日、谷の奥 (K. K.)

上記の1例しか記録は少ないものと思われる。

2. *Argynnis paphia* LINNAEUS ミドリシロウモン

1974-IX-29 采日岳 (T. TOMODA, S. YASAKI & Y. MUKOHARA)

1975-VI-19 もみじ平 (K. K.)

山すそ、中腹寺跡付近、マイクロウェーブ麓沿いのみみかけるが、あまり多くない。

3. *Nephargynnis anadyomene* C. et R. FELDER クモカクシロウモン

1974-V-26 采日岳 (M. NAKANO)

1975-VI-10 中腹寺跡付近 (K. K.)

全山を通じてみかけるが、数は少ない。

4. *Damora sagana* DOUBLEDAY メスグロシロウモン

1974-IX-29 采日岳 (T. TOMODA, S. YASAKI & Y. MUKOHARA)

今までのところ、上記の1例のみである。少ないものと思われる。

5. *Fabriciana adippe* LINNAEUS ウラギンシロウモン

1961-VI-7 中腹寺跡付近 (K. K.)

採集例は上記1例のみであるが、山すそや中腹の草地には時々みかける。

6. *Argyreus hyperbius* LINNAEUS ツマグロシロウモン

1973-IX-15 采日岳 (M. NAKANO)

1976-VIII-20 山頂 (K. K.)

本種は、采日岳に限らず、山頂に集まるヒカマが多く、夏から秋にかけて、山頂付近でのみみかける。数は少ない。

7. *Limentis (Ladoga) camilla* LINNAEUS イチモンジチョウ

1975-VI-4 采日、谷の奥 (K. K.)

1976-VI-1 今津トンネル付近 (K. K.)

山すそ、中腹、ともに普通にみられ、新緑葉上に着止するもの、路上に降りているもの、またウツキの花などに集まるものを多くみかける。

8. *Neptis sappho* PALLAS コミスジ
 1974-IX-29 采日岳 (M. NAKANO)
 1975-V-12 中腹寺跡付近 (K. K.)
 1975-VIII-12 采日 (K. K.)
 山すそから山頂まで"最も普遍にみられる。
9. *Araschnia burejana* BREMER サカハ千チョウ
 1974-IX-29 采日岳 (M. NAKANO)
 1975-V-12 采日 (K. K.)
 山すそから中腹にかけてみられるが、数は少ない。
10. *Kaniska canace* LINNAEUS ルリタテハ
 1968-IV- 采日岳 (M. TANIKADO)
 1975-VIII-6 元薬師、谷の奥 (K. K.)
 山すそから中腹の雑木林付近で"みられ、クヌギ、カシ等の樹液や獣糞に集まるもの、路上に静止するものを多くみかける。
11. *Polygonia c-aureum* LINNAEUS キタテハ
 1976-VI-1 今津トンネル付近 (K. K.)
 山すその草地にみかけるが、あまり多くない。
12. *Nymphalis xanthomelas* DENIS et SCHIFFERMÜLLER ヒオドシ
 1968-IV-21 采日岳 (N. YOSHIDA)
 1975-VI-19 もみじ平・山頂 (K. K.)
 中腹の雑木林の樹液に集まっているもの、路上に静止しているものを多くみかける。山頂付近にも少なくない。
13. *Cynthia cardui* LINNAEUS ヒメアカタテハ
 1963-IV-19 山頂 (K. K.)
 上記の1例しかあるのみで、少ないものと思われる。上記個体は越冬したもの。
14. *Vanessa indica* HERBEST アカタテハ
 1973-IX-15 采日岳 (M. NAKANO)
 1975-VI-19 もみじ平 (K. K.)
 山すそから中腹に多くみかけ、花や樹液に集まり、路上に静止するものもみられる。
15. *Dichorragia nesimachus* BOISDUVAL スミナガシ
 1974-V-28 采日岳 (M. NAKANO)
 1975-VI-4 采日、谷の奥 (K. K.)
 1975-VI-19 もみじ平 (K. K.)
 山すそから中腹にかけて多く、木の葉上の静止するもの、樹液に集まるもの、路上に静止するものなど、多くみかける。
16. *Apatura ilia* DENIS et SCHIFFERMÜLLER コムラサキ
 1976-VIII-4 采日、谷の奥 (K. K.)
 谷すいには食樹であるヤナギ類を多くみかけるが、採集例は上記1例のみ。
17. *Hestina japonica* C. et R. FELDER コマダラチョウ
 1974-V-28 采日岳 (M. NAKANO)
 1976-VIII-4 采日 (K. K.)
 山すそを中心に多く、エノキの大木の回りを飛翔するものや、クヌギ等の樹液に集まるものをみかける。

采日岳のタテハチョウ科の特徴は、草原が少ないせい
が、草類を好むヒョウモン類、例えば「ウラギンヒョウモン」、
「ウラギンズジヒョウモン」、オオウラギンズジヒョウモン
等は非常に少なく、反面エノキを食するヒオドシチョウ、
ヤマダマチョウ、サルトリイバラを食するルリタテハ等
が多いことである。特に、アワアキ科の植物を食するス
ミナガキは非常に多い。

この他に、標本はないが、Fabriciana nerippe C. et
R. FELDER. オオウラギンヒョウモン (1969-VI-30 采日岳、
高田J厚K) の記録があるので、Sasakia charonda HEWITSON オ
オムササキの発見とともに今後の課題としたい。

IX SATYRIDAE シヤノメチョウ科

1. *Ypthima argus* BUTLER ヒメウラナミシヤノメ
1973-V-27 采日岳 (T. ENDO)
1975-V-28 もみじ平 (K. K.)
1975-VIII-12 中腰寺跡付近 (K. K.)
山腰から中腰まで普通にみられ、雑草の間を低く飛び、花に集まるものもみられる。
2. *Minois dryas* SCOPOLI シヤノメチョウ
1974-IX-29 采日岳 (M. NAKANO)
1975-VIII-12 山腰 (K. K.)
ススキ等各種のイネ科雑草を食する本種は、草原の少ない采日岳では数は
少ないと思われる。上記の個体の他に数頭を山腰付近でみかけただけだった。
3. *Neope nipponica* BUTLER ヤマキマダラヒカゲ
1973-V-12 山腰 (K. K.)
1976-V-20 中腰寺跡付近 (K. K.)
いずれも中腰より上で採集したもので、数は少なくないが、全てヤマキマダラ
ヒカゲであって、サトキマダラヒカゲの棲息は確認できなかった。今後調査
したい。
4. *Harima callipteris* BUTLER ヒメキマダラヒカゲ
1974-IX-29 采日岳 (M. NAKANO)
1975-V-28 山腰 (K. K.)
中腰寺跡付近から山腰上までみられるが、あまり数は多くない。上記2例の採
集日の差が大きいので、9月29日のものは、第2位の個体かも知れないが、
今後の調査を待ちたい。
5. *Lethe diana* BUTLER クロヒカゲ
1974-V-26 采日岳 (M. NAKANO)
1975-V-27 采日 (K. K.)
1975-V-28 もみじ平 (K. K.)
中腰のタケ、ササ類のあるところでは普通、樹林に集まっているものが多い。

6. *Lethe sicelis* HEWITSON ヒカゲチョウ
1975-VI-10 来日 (K. K.)
前種と同じく林縁、林間等の日陰を好み、木藪や腐敗した果実等に集まるものとみかけるが、前種よりはるかに数は少ない。
7. *Mycalesis francisca* CRAMER コジャノメ
1973-V-27 来日 (T. ENDO)
1975-V-15 城崎ロープウェイ上終点付近 (K. K.)
1975-V-27 来日 (K. K.)
山すそから中腹に少なくない。林の中およびその近くにみられ、日陰の葉上などに止まっているものと多くみかける。

他の科の蝶に比較して、この科の蝶の記録は少なく、当然発見されるべきはずの *Mycalesis gotama* MOORE セメシノメの記録がない。また、*Neope goschkeyitschii* MÉNÉTRIÈS サトキマダラヒカゲの標本の確認もできていない。今後の詳しい調査を期待したい。

V まとめと今後の方向

I	HESPERIIDAE	セセリチョウ科	7 (7)
II	PAPILIONIDAE	アゲハチョウ科	9 (10)
III	PIERIDAE	シロチョウ科	6 (6)
IV	LYCAENIDAE	シジミチョウ科	10 (10)
V	CURETIDAE	ウラギンシジミ科	1 (1)
VI	DANAIDAE	マダラチョウ科	1 (1)
VII	LIBYTHEIDAE	テングチョウ科	1 (1)
VIII	NYMPHALIDAE	タテハチョウ科	17 (18)
IX	SATYRIDAE	ジャノメチョウ科	7 (7)
TOTAL			59 (61)

来日岳における蝶類の科毎の既知種類数

()内は目撃・毎所記録を含む数

来日岳で「現在まで」に記録された種は以上の通りであるが、調査した季節の偏り（特に夏から秋にかけての記録が少ない）や、コースの偏り（竹野町側からの調査を行っていない）などから、また「また」この地域からの種の数は増加するものと考えられる。また、せっかくなので

ながら、私の不勉強から食草、食樹等の調査が少しも
されておらず、深く反省している。その面も含めた総
的な調査をしなければならぬと思う。今後は、1976年
に出された「妙見・蘇武・三川および神鍋周辺の蝶類」(遠藤
二、自然保護協会但馬支部研究紀要, vol. 2(3)) とこの采
の蝶類の目録の間隔を埋める意味で大岡山、矢次山へ
調査にも目が行くことを望む。

栗田岳にも中腰に船舶人の無縁中継所と称する大きな
物ができたり、栗田部落からは立派な林道が刻一刻と
上めざしてのびつつあり、蝶達の環境の変化はとまる
ころを知らないのが現実である。この目録がまったく
過去の記録とならないことを祈らずにはいられない。

IRATSUME の原稿を募集します!!

IRATSUME 第2号はタイプ印刷で
来春(1978年4月)刊行の予定です
どなたでも結構、下記要領で御投稿下さい

— 投 稿 規 定 —

1. テーマは特に設定しない。採集報告、研究報告、エッセイ等昆虫に限らず、生きもの、自然に関するものは認める。また但馬外についてのものも認める。
2. 原稿は原則として A4 版横罫 400 字詰め原稿用紙とする。
3. 図版、写真等は原則として投稿者による。また本文中の挿入場所を指定のこと。
4. 締切りは1977年12月末日までとする。
5. 原稿の送り先は最寄りの連絡人へ(裏表紙参照)